

## 54. 学院の教育におけるインターネット活用について

学院 言語聴覚学科 下嶋哲也、義肢装具学科 星野元訓、視覚障害学科 丸山華子  
手話通訳学科 木村晴美 リハビリテーション体育学科 梅崎晴美  
脳卒中リハビリテーション看護認定看護師教育課程 佐藤雅子、児童指導員科 関剛規

### 【はじめに】

学院の教育は従来、授業は基本的に対面で行い、教材や試験等はほぼ紙での配布、事務的な連絡も電話、あるいは個人のメールアドレスを学生から集める等の形で行ってきた。しかし、2020年に始まるコロナウィルス感染拡大をきっかけに、運営や授業のあり方は大きく変わった。

学院として各学科で情報交換や対応の協議をするなかで、2020年年初明けから3月にかけて、学校としてのアカウント取得（いわゆるacアカウント）作業、ZoomやGoogle Classroomといったアプリケーションソフトについての勉強会を行った。そして2020年4月の休校中、さらに準備をすすめ、4月下旬から5月末までは全学オンラインのみの授業と学科運営を行った。それ以降は対面授業も各学科開始され、現在も授業等で対面・オンラインの併用が続いている。始まりからおよそ3年が経過し、インターネット活用はもはや学院の教育システムの一部となっており、教官にとっても学生にとっても不可欠なものになっている。インターネットの利用が授業や学科運営に現在どのように活用されているのか調査を行い、コロナ前後の教育方法のあり方の変化と今後の課題について考察したので報告する。

### 【方法】

2023年9月～10月にかけて、各学科にインターネットの活用に関する調査フォームを送付し、学科ごとに記入してもらった。調査フォームは、インターネットを利用するアプリケーションソフト、使用年度、使い方について聞くものであった。6学科すべて（100%）から調査フォームを回収し、結果を整理した。10月～11月に、活用上の問題点や課題について追加調査した。

### 【結果】

調査フォームより、使用法について63件の回答があった。使用アプリケーションソフトは、Googleプラットフォーム上のアプリ（Google Classroom, Gmail, Forms, Calendar, Chat, Jamboard, Drive）とZoomで89%を占めていた。用途としては、授業関連（23件39.7%）、学生管理（10件17.2%）、通知（学生対応）（9件15.5%）、学科運営（4件6.9%）、調査（学生対象）3件（5.2%）、学科行事等（3件5.2%）、研修事業（3件5.2%）、その他（3件5.2%）となった。

### 【考察】

acアカウントによるGoogleプラットフォームおよびZoomを中心としたインターネットの活用は、コロナ対策として始まったが、現在では学院の教育にとって不可欠なシステムとなっている。

### 【今後】

現在調査中の問題点および課題について、発表を以て検討結果を報告する。